

ご あ い さ つ

「アフターコロナでの 飛躍の年に」

常滑市長 伊藤 辰矢



あけましておめでとうございます。市民の皆様には、清々しい新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症については、令和3年に引き続き昨年も新規感染者数が全国的に増減を繰り返し、社会的に大きな影響を受けました。

市といたしましては、ワクチン接種などの感染拡大防止対策、市民・事業者の皆様への各種支援事業に取り組んでまいりました。

現在は、人の動きや経済活動が徐々に平常に戻りつつあり、国は観光産業を中心とした経済の活性化を図るため、「全国旅行支援」などを実施しています。

本年も、感染拡大防止対策と社会経済活動の活発化に向けてバランスを取りながら人・モノが行き交う元気な常滑を少しでも早く取り戻すべく取り組んでまいります。

去年は、あらたなまちづくりのスタートの年でした。

1月4日から新庁舎での業務を開始し、6月には市民病院「婦人科ウィメンズセンター」が開所しました。10月からは、市内の北部から南部までを結ぶ「コミュニティバス グルーン」が運行を開始しました。

また、新たなまちづくりの指針となる「第6次常滑市総合計画」、観光客を呼び込む「観光戦略プラン」、デジタル技術により市民の利便性向上などを図る「デジタル化推進プラン」がスタートし、常滑市のさらなる発展に向けて動き出した一年でした。

本年も、「安全」「安心」「成長」の3つの視点でこうした計画を着実に実行し、市の魅力をさらに高め、すべての常滑市民が、「ずっと住み続けたいまち」、「ずっと常滑。」と願っていただけるよう、アフターコロナでの飛躍に向けて、全力で取り組んでまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、幸多き一年となりますことを心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

令和5年元旦



2023

新年の



「市民のための議会を 目指し、まい進して まいります」

常滑市議会議長 稲葉 民治

あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、よき新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より市議会の活動につきまして、ご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、1年を振り返りますと、昨年1月4日から、新市庁舎での業務を開始して以来、たくさんの方にご来庁いただいております。皆様にご気持ちよくご利用いただけているのではないかと考えております。

新庁舎への移転に併せて、議会ではタブレット端末を導入し、すべての会議でペーパーレス化を図ることで、議会の新しい時代の確立を目指しています。

また、2つの特別委員会を設置し、調査・研究を行ってまいりました。「議会活性化推進特別委員会」では、議会運営の改善やタブレット端末の活用方法などについて検討を行いました。「第2期中部国際空港関連事業調査特別委員会」では、講師による勉強会や現地視察などを実施しました。

9月には「とこなめ子ども議会 2022」を議場で開催し、青海中学校の生徒が市議会定例会の一般質問の形式で意見を発表し、議員が答弁を行いました。

これからの市の発展を担っていく若い世代の人に議会の活動を知ってもらう、いい機会になったのではないかと思います。

今後も、市民のための議会として、新型コロナウイルス感染症の対応だけにとどまらず、さまざまな課題に取り組んでまいりますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

新しい年が皆様にとりまして、輝かしい年となりますことを心からご祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

令和5年元旦